

第八回 「Freedom of the City of London—ロンドン市名誉市民になる—」

岡部 芳彦

この連載コラムの第二回にロンドン市である面接を受けたことを書きました。その面接は、ロンドン市の名誉市民の称号であるフリーダム・オブ・ザ・シティ・オブ・ロンドン (Freedom of the City of London) に僕が相応しい人物かを見極めるためのものでした。本年1月17日に正式に認定され、このたび拝受することになりました。3月初めに授与式のため、ロンドン市役所であるギルド・ホールを訪れました。ロンドン市 (the City of London) については第二回に詳しく書いてありますのでご興味おありの方はご覧ください。

Freedom of the City of London の最近の主な受賞者は、ファッションデザイナーのジミー・チュー、映画『007』シリーズでジェームズ・ボンドの上司M役を演じるジュディ・デンチ、名探偵ポワロ役で知られるデヴィッド・スーシェなどです。その他にロンドン・パラリンピックのメダリストや、昨年3月には『英国王のスピーチ』でアカデミー賞主演男優賞を受賞したコリン・ファースにも授けられるなど芸術・文化関係の方が多くようです。僕の場合は、研究対象の一つが蒸気機関を発展させ電力の単位にもなったジェームズ・ワットのビジネスパートナーで、現在の50ポンド紙幣にも描かれているバーミンガムの企業家マシュー・ボウルトンの銀・メッキ製品の製造やロシアで貨幣製造事業の展開です。その調査の過程で、バーミンガム銀製品組合の方々ともお付き合いができ、日本人でこの研究は珍しいということでバーミンガムの銀製品組合会員2名の推薦を受けまして、このたびの名誉市民号の授与となりました。

Freedom of the City of London は1237年に初めて授与されたと言われており、一般の日本人への授与は僕で二人目だと面接の際に聞かされていました。というのもこの名誉市民号は1996年までは英連邦圏の人に限定されていたためです。ただそれ以前にもう一人、同じく Freedom of the City of London を最初に授与された日本人がいました。1907年5月11日前後の英連邦圏の新聞各紙によれば、日本の皇族である伏見宮貞愛親王が遣英答礼大使として訪英した際、ロンドン市長から贈呈されたそうです。当時、日本とイギリスは日英同盟と呼ばれる同盟関係にありました。夜の晩餐会が外務大臣のエドワード・グレイ卿主催で全閣僚が出席して晩餐会が行われ、グレイ卿が挨拶の中で変わらぬ友好関係を強調したそうです。よって日本の皇族への異例の贈呈が行われたのかもしれませんが。



Freedom となることを承諾する書類に署名しているところ。



控えの間にあった外国人受賞者の写真。ブルームバーグ・ニューヨーク市長も2008年に Freedom となったそうです。

PRINCE FUSHIMI.

THE ANGLO-JAPANESE ALLIANCE.
United Press Association—By Electric
Telegraph—Copyright.
LONDON, May 11.

Prince Fushimi was presented with the Freedom of the City of London. He is accorded a great popular welcome everywhere.

Sir Edward Grey entertained Prince Fushimi at a banquet. Besides other members of the Government there were present Lord Lansdowne, Lord Roberts, and Admiral Sir John Fisher.

Sir Edward Grey emphasised the community of spirit and intentions shown in the Anglo-Japanese Alliance. Should

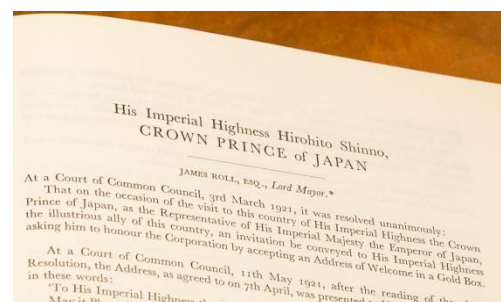
伏見宮貞愛親王への

Freedom of the City of London
授与を告げる当時の新聞記事。

式典が終わると、壁に掛けられたトラファルガー海戦で活躍したネルソン提督に授与されたFreedomの証書などを見ながら説明を聞いていたのですが、この日はFreedom授与を管轄しているロンドンのMurray Craig氏が日本人が来るということで過去の記録をすべて調べ直してくれたそうです。そうするとなんと伏見宮貞愛親王の後に実は二人の日本人に授与されていたことが判明したとのこと。テーブルの上の書物を見ると、一人目は1918年に貞愛親王の弟であった東伏見宮依仁親王、そしてもう一人は1921年にH. I. H. Hirohito Shinno, Crown Prince of Japanと書かれています。そう、皇太子時代の裕仁親王、のちの昭和天皇です。1921年の欧州歴訪で最初の訪問国であったイギリスを訪れた際、授与されたとのこと。あまり知られていませんが皇太子裕仁親王の欧州訪問については当時、国内で強い反対意見がありました。それを押し切って訪欧し、自ら進んで見聞を広めた昭和天皇らしいエピソードだと思いました。

説明の最後に「年齢にかかわらず、貴方が今一番若い(新しい)ロンドンのFreedomだが、それは10分だけだ」と言われました。げんな顔をしていると、控えの間に次のFreedom候補者の方が待っていました。記念すべき日なのでしょう、ご家族やご友人が10名ほどご一緒されています。なるほど彼女が授与されたら、一番若いFreedomとなるわけです。このようにして面々と歴史と伝統が受け継がれていくのだなと思いました。

ロンドンの名誉市民になったからと言って、翌日から何が変わるわけでもありませんが、日本人ながらイギリス文化の一部が身に着いた気はしています。授与式の最後にロンドン市名誉市民の『生涯守るべき規範』と題した本をいただきました。これからは少しでもFreedom of the City of Londonに相応しい人間になれるよう日々過ごしたく思っています。



Murray Craig氏から皇太子裕仁親王(のちの昭和天皇)のFreedom授与が書かれた書物を見せていただく。



僕の次のFreedomは赤いドレスの女性です。笑顔の素敵な方でした。

